

北海道立文学館 井上靖記念館 市立小樽文学館 石川啄木記念館 日本現代詩歌文学館 白鳥省吾記念館
いわき市立草野心平記念文学館 共愛学園前橋国際大学 群馬県立土屋文明記念文学館 群馬県立図書館

前橋文学館 群馬県立歴史博物館 群馬県立近代美術館 群馬県立文書館 太田市美術館・図書館 前橋市立図書館 アーツ前橋 さいたま文学館
市川市文学ミュージアム 公益財団法人日本近代文学館 世田谷文学館 竹久夢二美術館 東京都北区立中央図書館 田端文士村記念館 大田区立郷土博物館



詩の故郷、朔太郎を訪ね
言葉の素顔に出逢う
過去を再考することは
未来を創ることだ

萩原朔太郎大全 2022



主催 萩原朔太郎大全実行委員会 共催 開催各館・施設・団体／前橋市
協力 公益社団法人日本文藝家協会／全国文学館協議会／萩原朔太郎研究会／朔太郎賞の会／東和銀行／株式会社新潟社
／前橋文学館友の会 後援 前橋市教育委員会／前橋市文化協会 協賛 株式会社ジンスホールディングス

肖像画＝横尾忠則 A.D.=榎本了也 O=ATAMATOTE International 鈴口真理子

弱法師 公益財団法人大田区文化振興協会 慶應義塾大学アート・センター・三田文学会 大正大学附属図書館 四季派学会
明治大学理工学研究科総合芸術系 鎌倉文学館 小田原文学館 ドナルド・キーン・センター柏崎 室生犀星記念館

原画：横尾忠則 ポスターデザイン：榎本了也

萩原朔太郎大全2022 プレスリリース

企画概要

- 1 企画名 萩原朔太郎大全2022
- 2 会期 2022年10月1日～2023年1月10日
- 3 主催 朔太郎大全実行委員会
- 4 共催 開催各館、前橋市
- 5 後援 前橋市教育委員会
- 6 協力 公益社団法人日本文藝家協会、全国文学館協議会、萩原朔太郎研究会、朔太郎賞の会、前橋文学館友の会、東和銀行、新潮社
- 7 協賛 株式会社ジンズホールディングス・朝日印刷工業株式会社
- 8 概要 詩人・萩原朔太郎の没後80年にあたる2022年、朔太郎を介した企画展「萩原朔太郎大全2022」が全国52か所の文学館や美術館、大学等で開催されます。本企画は自筆原稿や写真をはじめ朔太郎に関する資料とその他の知的情報を各館で交換し、共にPRを図り、それぞれ特色ある展覧会を同時多発的に全国各地で開催するというものです。
分野を越えてこれほど多くの施設がそれぞれ独自の角度で同時期に朔太郎を展望する試みは、これまでに例がありません。本企画は全国的なネットワークで朔太郎を「共有する」ことの意義を得る貴重な機会であり、また「言葉」の新しいあり方を創出するきっかけとなることでしょう。
なお、テーマ・規模・展覧会期は各館の事情に合わせて、上記2の会期に重複する形で開催されます。（例：2022年9月から2022年10月まで、同年11月から2023年2月まで）

萩原朔太郎（はぎわら さくたろう）



1886（明治19）年11月1日—1942（昭和17）年5月11日。
群馬県前橋市生まれ。詩人。
従兄である萩原栄次から短歌の手ほどきを受け、文学の道に入る。
後に詩に転じ、1917（大正6）年に第一詩集『月に吠える』を刊行。
口語の緊迫したリズムで、感情の奥底を鮮烈なイメージとして表現し、後の詩壇に大きな影響を与えた。さらに、1923（大正12）年に出版した『青猫』で、口語自由詩の確立者として不動的地位を得る。享年55歳。

ご挨拶

詩人・萩原朔太郎（1886–1942）の没後80年に当たる今年、全国の総計52にのぼる文学館などをネットワークで結んで、「萩原朔太郎大全2022」という展覧会が開催されます。

『月に吠える』『青猫』『氷島』など、数々の傑作詩集で知られる萩原朔太郎は、近代日本詩史に一時代を画した天才詩人です。なまなましい官能と神経の震えや近代人の宿命的な孤独を、因習的な五・七の定型に縛られない音楽的な口語体で謳い上げた朔太郎の詩は、日本の詩歌の「言語」に決定的な革新をもたらすとともに、その可能性を限界まで押し広げる、壮大な文学的冒険でした。

今日、情報テクノロジーの発達とともに、言語メッセージの交換と流通はますます加速し、データとして日々大量に消費されつつありますが、その一方、言葉というものが本来持つ、豊かな陰翳や深い美、また真実を直接に表現し人の心を動かす力などは、むしろ貧困化の一途をたどっているように思われます。そうした美や真実や力を、いったいどうしたら回復することができるか。「萩原朔太郎大全2022」は、近代日本語に新しい富をもたらした萩原朔太郎の詩とその人生を手がかりに、人間にとって言語とは何か、表現とは何か、そこにおいて文学は今日いかなる役割を果たしうるのかといった、喫緊の重要性を持つ様々な問いを、全国の52もの文学館などが相互に連携しつつ、それぞれの独自の角度から考察してみようとする、大がかりな企てです。

今日の日本には、設立の由来、運営の母体、顕彰の対象などをそれぞれ異なる多くの文学館があり、従来、文学館相互での資料の貸し借りなどは行ってきたものの、基本的にはそれが独立した、別個の企画によって展示活動を継続してきました。今回、52もの文学館などが、「朔太郎の詩」という一つの中心テーマを共有し、連動しつつ、かつまた各文学館なりのかけがえのない個性を發揮しつつ、いわば「同時多発的」な展覧会を開催することになりました。これは未曾有と言ってもよい歴史的出来事であり、今年の後半以降、全国各地でいっせいに繰り広げられるこの「朔太郎祭り」を通じて、文学館の新しいありかたが、統一感のある多様性、ないし多様性のなかの求心性として追及されてゆくことになります。

文学館という文化施設には、未だ開花していない豊かな可能性が日々眠っているように思います。今回の「萩原朔太郎大全2022」が、こうした可能性の一端を開示するきっかけになればと、我々は強く願っています。様々な問い合わせを考察する企てと先に申しましたが、文学館は辛氣臭い「考察」や「学び」や「啓蒙」の場である以上に、人間精神の躍動を体感させてくれる「快樂」の場ともなり得るはずです。「同時多発的」な出来事としての本展覧会の開催とともに、詩の、文学の言葉の豊穣を賑やかに楽しむ祝祭の風が、日本列島を縦横に駆けめぐることをわれわれは心から願ってやみません。

朔太郎大全実行委員会を代表して
委員長 松浦寿輝

本企画のポイント

- 1 今秋、全国を朔太郎が席卷！
その世界観は、21世紀に改めてその革新性を見せつけます。
- 2 52の施設・団体が参加。文学の枠を超えて、美術、大学などでも開催されます。
企画内容も自由なこの取り組みは、全国初の試みです。
- 3 朔太郎の聖地、前橋文学館では貴重な第一詩集『月に吠える』初版無削除版を公開。
- 4 著名人の寄稿により、朔太郎の多面的魅力をまるごと収めた記念図書を発売。
2022年8月刊行予定です。
- 5 開催に際し、朔太郎の魅力や応援のメッセージが寄せられました。



朔太郎さん作品を主人公にした漫画を描き始めて、10年近く経ちます。「朔太郎大全」こんなにたくさんの施設で朔太郎さんをテーマにできてしまうからこわいんです、あの方。

漫画家・『月に吠えらんねえ』作者 清家雪子さん

多様なメディアが発達し個人の感情に容易にアクセスできる現代に生きているからこそ、伝えることを求めすぎない朔太郎の不器用さを愛せずにはいられないのかもしれない。

アーティスト・「月に吠える」作曲 ヨルシカ・n-bunaさん



6. 共通ポスターには、本企画の趣旨に賛同する画家・横尾忠則による朔太郎肖像画を使用。エンブレムはイラストレーターの榎本了壱によるデザインです。



横尾忠則

1936年兵庫県生まれ。美術家。72年にニューヨーク近代美術館で個展。その後もパリ、ヴェネツィア、サンパウロ、バングラデッシュなど各国のビエンナーレに出品し、ステディック美術館（アムステルダム）、カルティエ財団現代美術館(パリ)、ロシア国立東洋美術館（モスクワ）など世界各国の美術館で個展を開催。国際的に高い評価を得ている。また、東京都現代美術館、京都国立近代美術館、金沢21世紀美術館、国立国際美術館など国内でも相次いで個展を開催し、2012年、神戸に横尾忠則現代美術館開館。2013年、香川県豊島に豊島横尾館開館。作品は国内外多数の主要美術館に収蔵されている。主な受賞に95年に毎日芸術賞、01年に紫綬褒章、06年に日本文化デザイン大賞、08年に小説『ぶるうらんど』で第36回泉鏡花文学賞、11年に旭日小綬章、同年度朝日賞、14年に山名賞、15年に第27回高松宮殿下記念世界文化賞、16年「言葉を離れる」で講談社エッセイ賞、令和2年度東京都名誉都民顕彰ほか受賞・受章多数。

撮影/横浪修

榎本了壱

1947年東京生まれ。武蔵野美術大学卒業。16歳で二科展最年少入選。大学在学中より恩師栗津潔と「渋谷天井棧敷館」をデザイン製作。1971年寺山修司監督作品『書を捨てよ町へ出よう』美術担当。天井棧敷ヨーロッパ公演に美術監督として参加。1974年萩原朔美と『月刊ビックリハウス』を創刊。1980年より「日本グラフィック展」「オブジェTOKYO展」「URBANART」などを1999年までプロデュース。1989年「世界デザイン博」住友館総合プロデュース。「横浜博」広報・アートディレクション。1991年「日本文化デザイン会議・島根」議長。2001年「うつくしま未来博」「なぜだろうのミュージアム」（グッドデザイン賞受賞）展示企画演出。「九州博覧祭」「TOTOミラクルマジック館」（北九州市長賞受賞）総合プロデュース。2002年丸ビル（三菱地所）オープニングイベントプロデュース。2016年「東京2020オリンピック・パラリンピック」エンブレム委員。ギンザ・グラフィックギャラリー「榎本了壱コーカイ記」個展。2019年前橋文学館「線セーション」個展。大正大学教授表現学部長。京都芸術大学客員教授。



参加施設・開催内容等

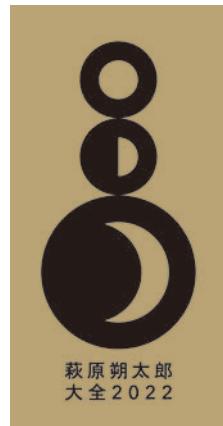
施設・団体名	タイトル	会期
1 北海道立文学館	ふみくらの中の朔太郎	2022.10.29～2022.12.25
2 井上靖記念館	萩原朔太郎と井上靖（仮）	2022.10.1～2023.1.9
3 市立小樽文学館	萩原朔太郎と伊藤整－〈若い詩人〉の憧憬－	2022.9.3～2022.11.3
4 石川啄木記念館	未定	未定
5 日本現代詩歌文学館	萩原朔太郎に捧げる詩歌（仮）	2022.10～2022.11
6 白鳥省吾記念館	萩原朔太郎－省吾と同時代の詩人－（仮）	2022.8.2～2023.1.29
7 いわき市立草野心平記念文学館	萩原朔太郎大全2022－詩の岬－	2022.10.8～2022.12.18
8 共愛学園前橋国際大学	音楽でたどる朔太郎（仮）	2022.10.24～2022.11.14
9 群馬県立土屋文明記念文学館	群馬と詩人と朔太郎（仮）	2022.10.8～2022.12.18
10 群馬県立図書館	萩原朔太郎大全2022×群馬県立図書館（仮）	2022.9.30～2022.10.26
11 群馬県立歴史博物館	検討中	2022.10.15～2022.12.4（仮）
12 群馬県立近代美術館	「萩原朔太郎大全2022」連携展示詩とイメージ －司修作品を中心に	2022.11.1～2022.12.21
13 群馬県立文書館	前橋藩士諸家文書の世界～朔太郎の母方・八木家文書 を中心に～（仮）	2022.8.6～2022.12.25
14 太田市美術館・図書館	萩原朔太郎大全2022	2022.9.28～2022.10.23
15 さいたま文学館	朔太郎大全inさいたま文学館（仮）	2022.11.30～12.25（予定）
16 市川市文学ミュージアム	月に吠えらんねえ展～ようこそ！おもひまぼろしこと だまの街へ～	2022.10.8～2022.12.11
17 公益財団法人日本近代文学館	未定	2022.12.3～2023.2.11
18 世田谷文学館	萩原朔太郎展（仮）	2022.10.1～2023.2.5
19 竹久夢二美術館	夢二をとりまく人間関係 －交流から生まれた美と言の葉－（仮）	2022.10.1～2021.12.25
20 東京都北区立中央図書館	ドナルド・キーンと萩原朔太郎（仮）	2022.12.6～2023.3.30
21 田端文士村記念館	朔太郎・犀星・龍之介と田端	2022.10.1～2023.1.22
22 大田区立郷土博物館	萩原朔太郎と馬込の文士たち	2022.9.27～2022.12.11
23 公益財団法人大田区文化振興協会	『馬込文士村空想演劇祭2021』日本のラジオ『ヨビゴ エ』～萩原朔太郎詩集「月に吠える」「青猫」より～	2022.10月中配信
24 慶應義塾大学アート・センター、 三田文学	萩原朔太郎大全2022 シンポジウム 萩原朔太郎と詩の未来（仮）	2022.10.22
25 大正大学附属図書館	萩原朔太郎とその周辺の人々（仮）	2022.10.1～2021.12.24（予定）
26 「天上の花」製作運動体	映画「天上の花」	公式Twitter等をご確認ください
27 四季派学会	四季派学会冬季大会（仮）	2022.11～2022.12のうち1日
28 明治大学理工学研究科総合芸術系	朔太郎と歩く	2022.12.1～2022.12.24
29 鎌倉文学館	特集展示「朔太郎とカマクラ」	2022.10.2～2022.12.23
30 小田原文学館	北原白秋没後80周年記念展（仮題）	2022.10.1～2022.11.30
31 ドナルド・キーン・センター柏崎	萩原朔太郎とドナルド・キーン（仮）	2022.10.1～2022.10.31
32 室生犀星記念館	萩原朔太郎と犀星（仮）	2022.7.16～2022.11.13
33 金沢美術工芸大学	萩原朔太郎×恩地孝四郎	2022.10.3～2022.12.27
34 福井県ふるさと文学館	朔太郎大全～師・萩原朔太郎と三好達治（仮）	2022.10.1～2023.1.9（予定）
35 山梨県立文学館	常設展・芥川龍之介コーナー	2022.10.4～2022.11.30
36 堀辰雄文学記念館	萩原朔太郎 芥川龍之介への手紙 萩原朔太郎没後80年 萩原朔太郎と堀辰雄（仮）	2022.7.14～2022.12.27
37 軽井沢高原文庫	文学のふるさと・軽井沢 －朔太郎、犀星、龍之介、辰雄…－	2022.10.14～2022.11.30
38 焼津小泉八雲記念館	日本という幻想 文豪の目に映る蓬莱（仮）	2022.10中旬～2023.1中旬
39 愛知大学豊橋キャンパス	丸山薰と萩原朔太郎－丸山薰あて、朔太郎書簡の里帰 り	2022.10.3～2022.12.2
40 弱法師	未定	未定
41 古美術近藤	未定	未定
42 公益財団法人 吉備路文学館	吉備路近代文学の7人展－生誕・没後記念－	2022.11.13～2023.2.26
43 永瀬清子展示室	詩人の系譜－萩原朔太郎から永瀬清子へ	未定
44 中原中也記念館	萩原朔太郎と中原中也－萩原朔太郎大全2022（仮）	2022.10.6～2022.11.27
45 菊池寛記念館	第31回文学展「（タイトル未定）」	2022.10.1～2022.11.6
46 坂出市万葉会館	未定	未定
47 壱井栄文学館	80年の時を経て朔太郎・春月を栄・繁治が繋ぐ	2022.10.1～2023.1.10
48 北原白秋生家・記念館	白秋と朔太郎の世界～朱鸞から朱鸞へ～	2022.10.1～2023.1.10
49 くまもと文学・歴史館	煩悶と運命－朔太郎と熊本のゆかり－	2022.10.14～2022.12.5
50 アーツ前橋	萩原朔太郎大全2022 朔太郎と写真	2022.11.19～2023.3.5
51 前橋市立図書館	調整中	調整中
52 前橋文学館	萩原朔太郎研究会歴代会長展（仮）	2022.10.1～2023.1.15

広報用提供画像

下記の画像のうちご希望の画像番号と必要事項を「「萩原朔太郎大全2022」広報用画像使用申込書」に記入し、担当宛にFAXまたはE-mailでお送りください。申込書を受け取り後にE-mailで画像を [.jpg] でお送りいたします。

*掲載にあたっては、「前橋文学館」を写真提供元として表記してください。

*「萩原朔太郎大全2022」の広報を目的とする場合に限り、画像をご提供いたします。個人のブログやSNSへの掲載や鑑賞等を目的とする場合にはご提供できません。



(A) 萩原朔太郎大全2022公式ポスター

* 下記クレジット表記お願いします。

原画：横尾忠則

ポスターデザイン：榎本了壱

(B) 朔太郎大全2022公式エンブレム

* 別送エンブレムガイドをご確認の上ご使用ください。



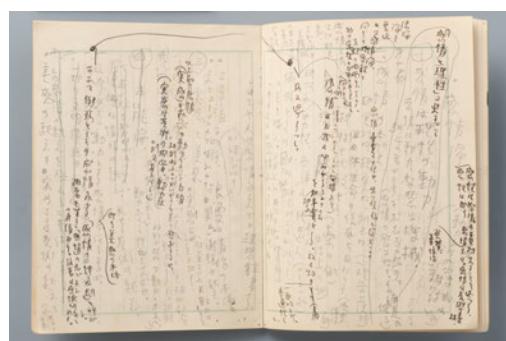
(1) 萩原朔太郎
『月に吠える』
感情詩社・白日社
1917（大正6）年2月
表紙絵：
田中恭吉「夜の花」

(2) 萩原朔太郎
『青猫』新潮社
1923（大正12）年1月
装幀：萩原朔太郎

(3) 萩原朔太郎自筆原稿
「竹」（原稿3枚）
(『月に吠える』所収)



(4) 萩原朔太郎自筆原稿
「帰郷」（原稿2枚）
(『氷島』所収)



(5) 萩原朔太郎自筆原稿
「詩の原理」研究ノート



(6) 萩原朔太郎遺品
ギター（ツバメ印）

(7) マンドリンを持つ朔太郎
高校を中退して帰京している頃
1911（明治44）～13（大正2）
年頃、26～30歳頃



(8) 萩原朔太郎肖像写真
大正半ば頃、30代半ば

(9) 萩原朔太郎肖像写真
1924（大正13）年頃、38歳頃

(10) 萩原朔太郎肖像
写真 晩年

「萩原朔太郎大全2022」広報用画像使用申込書

萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館「萩原朔太郎大全2022」事務局宛
FAX：027-235-8512 E-mail：press@sakutaro2022.com

使用画像番号：

(A) (B) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)

※ご希望の画像の番号に○をつけてください。

掲載誌名：

発行日（発行予定日）：

発行元：

貴社（ご所属）名：

ご担当者名：

所在地：

TEL：

FAX：

E-mail：

